

# 平成 30 年 NPO 法人ふれ愛びっく大阪クラブルール研修会

2018.02.18  
柏原市民プラザ会議室

## 1 主催者挨拶

NPO法人ふれ愛びっく大阪クラブ	理 事 長	藤 森 洋 幸
NPO法人ふれ愛びっく大阪クラブ	審判委員長	堀 川 俊 純
NPO法人ふれ愛びっく大阪クラブ	記録委員長	大 谷 和 之

## 2 講師紹介

NPO法人ふれ愛びっく大阪クラブ	理 事 長	藤 森 洋 幸
NPO法人ふれ愛びっく大阪クラブ	審判委員長	堀 川 俊 純
NPO法人ふれ愛びっく大阪クラブ	審判副委員長	松 野 宏 信

## 3 参加者自己紹介

## 4 研 修

- ① グランドソフトボール競技のルール改正について  
2018 年度から適用  
全日本グランドソフトボール連盟「ルール検討委員会」
- ② あなたはどう判断しますか、みんなで考えよう「グランドソフトボールのルール」

休 憩

- ③ 質 疑

## 平成 30 年 NPO 法人ふれ愛びっく大阪クラブルール研修会資料 1

# 2018 グランドソフトボール競技ルール改正について

NPO 法人ふれ愛びっく大阪クラブ

2018 年 1 月 28 日、名古屋市氷室住宅集会場で、全日本グランドソフトボール連盟「ルール検討委員会」金野 守委員長から、2018 年度年から適用される「グランドソフトボール競技」の改正ルール説明があった。

その説明を受け、ふれ愛びっく大阪クラブが要約をまとめたものです。

### <主な改正点>

#### 1 ユニホーム

同一チームの監督・コーチ・プレイヤーのユニホームは、同色、同意匠でなければならない。

ユニホームに付ける登録番号、意匠等の色に関しては、見づらいものでなければ特にこれを定めない。

全盲プレイヤーは、幅 8cm 以上のユニホーム袖口の色と区別のつきやすい単色（黄色意外）の標示物を両袖に付ける。

#### 2 フェアプレイ、スポーツマンにふさわしい行動

すべてのチームメンバーは、フェアプレイ及びスポーツマンにふさわしい行動をしなければならない。

<ペナルティー>

- ① 違反者は退場。
- ② ディレードデットボール

#### 3 指名打者（DH）

指名打者とは、打撃専門のプレイヤーをいう。指名打者（DH）は全盲・弱視いずれか 1 名ずつの採用をすることができる。

- (1) 指名打者は、全盲・弱視それぞれどの守備につけてもよいが、試合開始前に打順表に登録しなければならない。
- (2) 指名打者は、試合途中から採用することはできない。
- (3) 指名打者は、試合中いつでも解除することができる。
  - ① 監督は球審に、指名打者が守備につくか、守備者が指名打者の打順を受け継ぐかを通告しなければならない。
  - ② 指名打者または守備者は、スターティングプレイヤーであっても、指名打者の解除

により試合から退いた場合は再出場できない。

#### 4 コーチャー

- (1) コーチャーは走者が安全に走塁するために、助言や指示を与えることができるが、全盲野手に打球処理の機会があるときは、大きな声や連呼、必要以上の手ばたき等の行動で、妨害してはならない。
- (2) 全盲打者走者・全盲走者に対するコーチャーの誘導は、連続した手ばたきとする。
- (3) 身体の一部をコーチャーズボックス内に置いておれば、全盲打者走者・全盲走者の身体に触れて誘導してもよい。
- (4) 弱視打者走者・弱視走者に対する手ばたきによる誘導は認めない。
- (5) 器具等を用いて誘導はしてはならない。

<ペナルティー(1)～(5)>

- ① ボールデット
- ② 当該打者走者または走者はアウト。
- ③ 走者は進塁できない。

#### 5 故意四球

守備側が、投球せずに故意に打者を一塁に歩かせるため、投手が球審にその旨を通告することをいう。

- (1) 通告は打席の初めでも、いかなるボールカウントでも行うことができる。
- (2) 通告は投球とみなされ、四球を与えるのに必要な投球数がカウントされる。
- (3) 故意四球が適用されると、ボールデットになり走者はフォースのとき以外は進塁できない。

#### 6 打者が他の攻撃側のメンバーのためにアウトになる場合

- (6) コーチャーボックス外のコーチャーに打球が触れたとき、また、コーチャーズボックス内のコーチャーが故意に打球に触れたと審判員が判断したとき。ただし、コーチャーズボックス内のコーチャーに偶然打球が触れたときはインプレイである。

#### 7 打者走者が守備妨害でアウトになる場合

- (5) 妨害が審判員の判断で、明らかに併殺を邪魔しようとしたものであれば、併殺対象の走者もアウトになる。

## <その他改正点>

#### 1 競技場

諸線の数値を、実際のライン引きで活用できるよう、四捨五入により数値を変更とした。

プレイヤーズベンチは、グラウンド境界線外側の場所で、競技場の左右に設け、その区画を明確にする。

#### 2 守備位置

野手(投手を除く)は打者の打撃行為が完了した後でなければ、投手板より前に出て守備してはならない。

3 正しい投球準備動作及び捕手の諸動作

捕手の合図（手ばたき）終了から5秒以内に投球動作に入る。ただし、捕手の合図（手ばたき）中は、投球動作を起こしてはならない。

4 進塁及び逆走塁の順序

5 走者が守備妨害でアウトになる場合

全盲走者が走路上をはずれて守備している野手に接触したとき。

6 守備者の制限

弱視野手は左遊撃手を除き全盲打者に対し、投球時に内野地域へ入ってはならない。全盲打者の内野地域への打球処理をできる内野手は、捕手と左遊撃手のみである。ただし、触塁していても内野地域へ入っているとみなさない。

守備側は全盲野手に対する打球の方向指示はしてはならない。ただし、打球の放たれた瞬間に各野手がポジション名や選手名を言うことを認めるが連呼をしてはならない。（守備についている全盲野手を除く）

7 ボールデット（試合停止球）

条項の整理

8 ボールインプレー（試合進行球）

条項の整理

9 用語の定義

新規規定

## 平成30年NPO法人ふれ愛びっく大阪クラブルール研修会資料2

次の問いで正しいものには○を、正しくないものには×をつけてください。

- 01 ( ) 全盲打者が、打者席から完全に片足を踏み出して、打撃をした。
- 02 ( ) 投球が、ストライクコースから大きくはずれ打者に当たった。その直後、打者が思わずスイングしたので、球審はストライクと判定した。
- 03 ( ) 全盲打者が、把握手部で打撃をした後、反転した打球はバットに当たった。球審は2度打ちとし、打者アウトと判定した。
- 04 ( ) 弱視打者の打球は小飛球となり、キャッチャーが確捕した。その飛球はキャッチャーの頭上近くまで上がったので、球審はフライアウトと判定した。
- 05 ( ) 全盲打者の打球はファールとなり、審判員はファールボールとコールをしたが一塁コーチャーは、声と手ばたきで走者を誘導したので、守備妨害と判定した。
- 06 ( ) 手ばたき中に、一塁全盲走者が離塁したので、投手は投手板を正しく外し、牽制球を一塁野手に投げた。走者の帰塁よりも早かったので、塁審はアウトのコールをした。
- 07 ( ) 離塁している全盲一塁走者を見て、投手から牽制球が投げられた。これを見た一塁全盲走者は、そのまま二塁に進塁を試みセーフとなった。
- 08 ( ) 一・二塁の守備ベースを結ぶ内野ラインのところで、ゴロを捕球しようとしている二塁手に全盲走者が当たったので、審判員はなりゆきとした。
- 09 ( ) 全盲打者が二塁に打球を打った。これを処理するため二塁弱視野手が、内野エリアに片足を入れ打球を捕球、一塁に送球しアウトになった。
- 10 ( ) 全盲打者が一塁方向に打った。一塁弱視野手は一塁ベース近くで打球を確捕、一塁守備ベースに素早く走りこんでベースにタッチ。これを見た塁審はアウトとコールした。
- 11 ( ) 一塁手の横を抜けた鋭いフェアの打球が、弱視走者に当たったが、内野での守備機会がないので審判員は、なりゆきとした。
- 12 ( ) 三塁側へ、鋭いファールボールが打たれ、三塁コーチャーボックス内のコーチャーに当たった。全盲三塁手がすばやく反応していたので、三塁審は三塁コーチャーに守備妨害の判定をし、打者アウトとした。
- 13 ( ) 二塁走者全盲のとき、弱視打者の三遊間へのゴロをショートが好捕した。その後、三塁へむかう走者をアウトにするため、三塁守備ベースへ触塁し、三塁手にボールを手渡したので、三塁審はアウトの判定をした。
- 14 ( ) 二塁走者全盲のとき、内野飛球が打たれ、ショートが落下点にはいり、まさに捕球しようとしていたが、三塁にむかう走者と接触した。全盲走者は正しい走路を走っていたので、走塁妨害である。
- 15 ( ) 全盲打者がセカンド方向にゴロを打ち、二塁手が外野ゾーンで打球を確捕したが、一塁への送球時に両足とも内野ゾーンに入ったので、審判員は反則捕球とし全盲打者走者に、

2個の安全進塁権を与えた。

- 16 ( ) 走者一塁、次打者の打球はゴロとなり一塁走者をアウトにするため、二塁手に送球したが、走者の足が速くセーフとなった。しかし勢いあまってオーバーランをしたが帰塁の意思を見せたので、直ちにアウトのコールをした。
- 17 ( ) 上記の状況でオーバーランをした走者がそのまま進塁したので、二塁手は三塁をカバーした野手に送球し、その野手が、三塁守備ベースに蝕塁したので三塁塁審はアウトのコールをした。
- 18 ( ) 投球動作は、投球のために投手板を踏み、捕手の手ばたき終了後に、本塁に向かって投球するため、動作を起こした時に始まり、投手が球を離すまでをいう。  
なお、投手は手ばたき終了後、5秒以内に投球しなければならない。
- 19 ( ) 全盲打者の打球を弱視野手（左遊撃手・捕手を除く）が「反則捕球」した場合、全盲打者走者に二つの安全進塁権を与える。他の走者は打者走者に押し出されない限り、当初占めていた塁に戻らなければならない。
- 20 ( ) 走者一塁（弱視）、打球を処理しようとした二塁手（弱視）は、その打球をはじいた。直後すぐ、後ろを走っていた一塁走者に、打球があたったので審判員は成り行きとした。
- 21 ( ) 三塁ファール地域に緩い打球が打たれ、全盲三塁手は守備体勢に入ったが、打球は三塁コーチャーに当たった。三塁コーチャーはコーチャーボックス内にいたので、審判員は故意と判断して、守備妨害として「アウト」を宣告した。
- 22 ( ) フェアー地域に打球が打たれ、全盲野手が捕球体勢に入ったとき球が止まった。審判員は「ストップボール フェアー」とコールしたが、直後、球は再び動き出し、全盲野手は捕球した。審判員は「ストップボール フェアー」として成り行きを見守った。
- 23 ( ) 走者二塁。次打者の打球は三塁側の「ファールボール」となり、全盲三塁手が「体内補球」したが、その時、左遊撃手による「指示反則」があり、審判員は「デイレード」の後、タイムをかけ「指示反則」のコールを宣告、打者に一塁を与え、走者一、二塁で再開した。
- 24 ( ) 左外野手（全盲）方向に打球が打たれた直後、捕手が「レフト」と大声で指示、その後、全盲三塁手が「レフト左」と再度指示し左外野手は捕球した。審判員は「アウト」とコールした。
- 25 ( ) 三塁の全盲守備者に打球が触れた後、全盲の左翼手に左遊撃手が指示し、左翼手が体内捕球したので、審判員はアウトのコールをした。
- 26 ( ) チームのユニホームが「赤色」を主体として構成されており、全盲選手には両腕には規定の寸法8cm幅で「ピンク色」の標示物を付けられていた。
- 27 ( ) 二死二・三塁のピンチに、監督は球審に「故意四球」を申し出た。

## 2. 次のような事例のとき、審判員はどのように対処すれば良いでしょうか

- 01 無死走者二塁(弱視)、打者が三塁前にバントした。三塁手(全盲)は、打球を捕ろうとして打球の方向へ移動しているとき、三塁コーチャーが大きな声で、二塁を飛び出した走者にバック・

バックと指示したため三塁手は捕球できなかった。

02 一死走者一・二塁（全盲）、弱視打者の打った一塁ゴロを捕った一塁手が、一塁守備ベースを踏んだ後、停止圏に入った左遊撃手に送球したので、塁審は「停止」のコールをした。

① 送球が確捕されたときは？

② 一塁走者は二塁に達していたが、二塁走者は三塁に達していなかった。

03 二死走者二塁、左中間に安打が打たれ、外野手からの返球を中継した左遊撃手が、三塁を回った走者をアウトにしようとして本塁へ送球するとき停止圏に入った。

04 一死走者二・三塁、次打者の緩い打球が、三塁のノープレイライン付近に転がりライン外に出たとき球審がノープレイを宣告した直後に、三塁手（全盲）が足から滑り込み、打球を止めた後確捕し持ち上げた。三塁手の上体はラインの内側にあった。

05 一死走者二・三塁（全盲）、打者の一・二塁間を抜けたゴロの打球で、本塁へ向かった三塁走者を、アウトにしようと右翼手が、前進して捕球し本塁へ送球したが、送球が少し遅れ、捕手は捕球をした。本塁守備ベースを踏めなかったが、三塁走者は本塁を空過した。

（送球が良ければアウト・セーフ微妙なタイミングであった）

① 本塁ベースコーチがボックスを出て走者を引き戻し本塁を踏ませた。

② 本塁ベースコーチがボックスに片足を残して走者を引き戻し本塁を踏ませた。

③ 本塁ベースコーチは、何の手助けもせず、三塁全盲走者を見守っていた。

06 一死走者一塁（全盲）、次打者の鋭い打球が投手に当たり、左翼方向に反転したが左翼手（全盲）が捕球して中堅手にトスをした。

一塁走者が二塁に達しているのを見た守備側は、中堅手から左遊撃手を経由して一塁に送球し、リタッチの早過ぎをアピールしたが、一塁審は打者走者へのプレイと勘違いをして、セーフの判定をした。

守備側は直ちに一塁走者に対するアピールだと抗議したが、審判団は協議の結果、打者走者アウト・二塁に達していた走者を一塁に戻して二死走者一塁で試合を再開した。問題点を考えてみよう。

07 一死満塁一・二塁走者（弱視）三塁走者（全盲）、次打者の打球は中外野手前に打たれた。各走者は進塁したが、三・本塁間を走っていた全盲走者が後位の走者に追い越されそうになったため、本塁コーチがコーチボックスを飛び出し、全盲走者を誘導した。

次の場合どう判定するのか。

ア、打球を処理したセンターが、本塁めがけて送球した。

ィ、センターは二塁に送球し、一塁走者はアウト。その後セカンドが本塁へ送球した。

ウ、センターは打球をはじき球は、外野へ球が転がった。

08 一死走者二塁（全盲）、遊撃手が強い打球を後ろに逸らしたが、数歩追って再度確捕したところ

へ二塁走者が来たのでタッチをし、打者走者が二塁を回ったので停止圏へ入った一塁手に送球した。